

東京南線3,4号線改修工事
環境影響予測評価書案に係る
審議資料

令和8年4月27日

目 次

○検討事項一覧	2
○審査経過等整理票.....	4

検討事項一覧

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

番号 (項目-資料)	審査内容	対応回
0 事業内容		
0-1	仮設ヘリポートの切土部分の原状復帰について	7⑦
1 大気汚染		
2 水質汚濁		
3 土壌汚染		
4 騒音・低周波音		
4-1	ヘリコプターの騒音・低周波音に係る具体的な環境保全対策について	7⑦
4-2	ヘリコプターの低周波音に係る評価結果について	7⑦
4-3	ヘリコプターに係る騒音・低周波音の条件整理について	7⑧
4-4	ヘリコプターの低周波音に係る対応について	7⑧
5 振動		
6 地盤沈下		
7 悪臭		
8 廃棄物・発生土		
8-1	伐採木の処理について	7⑦
8-2	抜根された根の処理について	7⑦
8-3	廃棄物の再資源化率等について	7⑦
8-4	埋め戻しに活用する土について	7⑦
8-5	再利用・再資源化の処理方法について	7⑧
8-6	陶磁器くずの取扱いについて	7⑧
8-7	埋め戻し土の締固めについて	7⑧

検討事項一覧

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

番号 (項目-資料)	審査内容	対応回
9	電波障害	
10	日照阻害	
11	反射光	
12	気象	
13	水象	
14	地象	
15	植物・動物・生態系	
16	文化財	
17	景観	
17-1	景観の予測結果の判断根拠について	7⑦
18	レクリエーション資源	
18-1	ハイキングコースを横断するモノレールの安全対策について	7⑦
19	温室効果ガス	
20	地域分断	
21	安全	

0. 事業内容

審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書4-2-18ページその他工事について、工事用地は原状復帰するとあるが、仮設ヘリポートの切り地した箇所については何らかの工事を行うのか。 <p>(検討事項)0-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設ヘリポートの切土部分の原状復帰について <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事の事業内容について、より理解することができた。 	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘリポートの切土部分については、切ったまま復元をせず対応する予定である。 ・ 原状復帰による土砂崩壊等を回避するため、復元しない予定であることを説明した。 	<p>検討事項 (0-1)</p> <p>確認事項</p>

4. 騒音・低周波音

審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<ul style="list-style-type: none"> 実施計画書段階からの大きな変更点としてヘリポートを追加し、予測・評価に加え説明いただいたが、ヘリポートの影響が懸念されるのは、騒音、低周波音、振動といったところだと思う。 図書を見ると、騒音については、ピークレベル74から94デシベルとかなり高い値になっていて、環境保全対策として、モノレールとの併用、飛行時間の制限等の記載があるが、いずれも定性的な表現にとどまっている。例えば、具体的に、そもそも想定される飛行回数がどの程度で、それがモノレールを併用するとどれくらい削減できるのか。 ヘリポートはすぐそばに学校が二つぐらいあるので、学校への影響が非常に懸念される。授業中もしくは子供が外で遊んでいる時などに騒音や振動等の影響があるかもしれない。そこに対してどういった環境保全対策を講じるか示す必要がある。 騒音・低周波音について、具体的に検討中であると承った。予測評価書段階では、できるだけ具体的な記載をお願いしたい。 	R7⑥ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> 各学校とはこの評価結果をもとに、一旦説明をしている。具体的な対策は協議中で、騒音に対しては、例えば、窓を閉め切るなどを対策として考えて話している。その際、窓を閉め切ることによる換気が課題となり、換気の方法について具体案を学校と協議している。 テスト飛行は実際のヘリ物流の3～4か月前に行い、音が気になるものか、我慢できるものかを確認し、そのような対策を考えている。 あと、今考えている具体的な方法としては、やはり、ヘリの飛行時間を極力短くできればあまり影響が出ないと考えているので、ヘリの飛行時間、飛行頻度も具体的に検討しているところである。 	検討事項 (4-1)
(検討事項)4-1 <ul style="list-style-type: none"> ヘリコプターの騒音・低周波音に係る具体的な環境保全対策について 具体的にモノレール併用によってどの程度ヘリコプターの飛行回数が減るのか、明確に示された。ありがとうございました。 	R7⑦	<ul style="list-style-type: none"> モノレールを併用することにより、飛行回数が削減できることを定量的に示すとともに、工事開始前の試験飛行による騒音・低周波音の屋外及び室内における実測結果を踏まえ、各学校と協議を進めることや、試験飛行スケジュール案、想定される具体的な環境保全対策について説明した。 	検討事項 (4-3) に統合

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音・低周波音に係る調査、予測、評価及び環境保全対策については、補足資料に示された検討内容を踏まえ、予測評価書段階では、ヘリコプターの運航条件(飛行回数、飛行時間帯、飛行期間、運航調整の考え方)、試験飛行の実施条件(実施時期、測定地点、屋外・室内の確認内容)及び事後調査の実施条件を明示した上で、適切に整理されたい。 (検討事項)4-3 ヘリコプターに係る騒音・低周波音の条件整理について (審査会前のメール) 予測評価書に条件を明示してほしい。 資料3-2、検討事項4-3で丁寧に条件整理してもらい、学校とも十分調整されているので、学校への影響を極力回避する方向で是非丁寧に進めてほしい。 	<p>R7⑦ 口頭</p> <p>R7⑧</p> <p>R7⑧ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> 葉山町の教育委員会、関係行政と調整を図りながら、質問の内容についても詰めて対応をしていきたい。 ヘリコプターの運航条件、試験飛行の実施条件、事後調査の実施条件について、学校と協議している内容を含めて説明した。 承知した。 	<p>検討事項(4-3)</p> <p>指摘事項 答申 (個別(1))</p>
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 低周波音については、予測及び抑制に不確実性が残り得ることを踏まえ、関係者及び周辺住民との事前の情報共有・確認の方法並びに想定外の影響が確認された場合の対応方針についても、あらかじめ整理されたい。 (検討事項)4-4 ヘリコプターの低周波音に係る対応について (審査会前のメール) 特にコメントはない。 	<p>R7⑦ 口頭</p> <p>R7⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現状、教育委員会との中では、窓を閉め切ることは必須という認識でいるので、その締め切った時の対応方法について協議を進めている。 最終的には、飛行回数などを詰めた上で、ヘリの物流の期間、時間を決定する。 質問の内容については、予測評価書にしっかりと反映する対応をしたい。 関係する自治会への周知の実施方法及び苦情対応方針について説明した。 	<p>検討事項(4-4)</p> <p>指摘事項 答申 (個別(1))</p>
<ul style="list-style-type: none"> 細かいことだが、資料3-2、検討事項4-3の1ページめにヘリコプター運行時期運搬開始を6月から計画とあるが、2027年6月という認識でよいか。何年とこのを入れておいた方が良いと思う。 分かった。 	<p>R7⑧ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2027年6月で間違いはない。 	<p>確認事項</p>

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物に対して、コンクリートガラがどれくらい発生するか、金属くずと陶磁器くずは有価物として売却するということは書かれているが、再利用、再資源化可能なものや、再資源化できない処分量がどれくらいの量想定されるか、通常であれば予測評価書案の段階なので、定量的に示すことが求められる。 一般的な神奈川県内の資源化率ではなく、本事業において想定される資源化率、処分量といったところを定量的に示してほしい。 <p>(検討事項)8-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の再資源化率等について <ul style="list-style-type: none"> ・ 再利用率、再資源化率が具体的に示された。ありがとうございました。 実際に100パーセントという数字が実現できるか、先ほど指摘もあったが、その方策も含めて、予測評価書段階ではしっかり記述してほしい。 	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の再資源化率については、持ち帰り検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属くず及び陶磁器くずは全量を産業廃棄物として処分せず、有価物として売却して再利用すること、コンクリートがらは全量を再資源化することを、説明した。 	<p>検討事項(8-3)</p> <p>検討事項(8-5)に統合</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の再資源化率が100パーセントと予定されているが、処理方法について目途がついているということなのか。どこの処理業者に出すのか、具体的に分かっている、100パーセント再資源化できるという見通しが立っているのか。 あと、金属くずは有価物と思われるが、陶磁器くずについても、有価物として処理できるものなのか。 <p>(検討事項)8-5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再利用・再資源化の処理方法について <p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前より分かりやすくなった。 	<p>R7⑦ 口頭</p> <p>R7⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再資源化率100パーセントについては、再資源可能な処理施設へ搬出処理を依頼することで考えている。過去の工事でも、コンクリートガラについては、再資源可能なところへ処理するよう実施しているため、同様に扱いたいと考えている。どこで処理するかは、これからであるため、現状では場所を明確にできない状況である。 陶磁器くずは「がいし」というものになる。がいしは、当社の資材センターで流用できるかどうか判定し、その後、流用できないものは、メーカーでの再資源化になるという流れである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリートガラについては、分別解体の上、100%再資源化する方針であることを説明した。 	<p>検討事項(8-5)</p> <p>指摘事項(答申(2)ア)</p>

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤解のないような書きぶりにしてほしい。 陶磁器くずは有価物として売却するの かどうか不明瞭な説明だったと思う。 メーカーで再資源化を行うとのことだ が、廃棄物として扱うかどうか不明なと ころがある。この文章だと全量を有価物 として再利用すると読めるため、記載を正 確にしてほしい。 (検討事項)8-6 ・ 陶磁器くずの取扱いについて (審査会前のメール) ・ 以前より分かりやすくなった。 金属くずは全量有価物として、廃棄物 とは別の表にまとめられた。 陶磁器くずなど、工事に伴い発生する 副産物は、性状や市況によっては廃棄 物にもなり得るので、影響を評価するた め、副産物の情報も記載する必要がある。 金属くずについても記載を残してほし い。 	<ul style="list-style-type: none"> R7⑦ 口頭 R7⑧ R7⑧ 口頭 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陶磁器くずの部分について、表現が良 くないという認識で受け止めた。表現の 見直しを含めて検討する。 ・ 陶磁器くずについて、再使用可能な もの以外は廃棄物として処理し、 99.9%再資源化することを説明した。 また、金属くずについては、有価物と して売却することから、廃棄物とならな いことを説明した。 ・ 承知した。 	<ul style="list-style-type: none"> 検討事項 (8-6) 指摘事項 (答申(2)ア) (答申(2)イ)

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書4-3-1ページ発生土について、「速やかに場外へ搬出し」とあるが、埋め戻しに活用される土はないのか。 	R7⑥ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生土について、埋め戻し分は工事用地内にいったん仮置きをしておくという計画である。それ以外の残土として搬出するものについては、その都度搬出するという予定である。その都度搬出することによって、工事用車両の通行を低減、通行が集中しないようにすることも対応できるため、そのように考えている。 	検討事項 (8-4)
<p>(検討事項)8-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋め戻しに活用する土について 	R7⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生土量、埋め戻し量、搬出量を示し、既設基礎部分の埋め戻し土として発生土の一部を活用することを説明した。 	検討事項 (8-7)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 埋め戻しに使えるものは使うということで、量も示していただいた。資料3-2の8-4のところ、埋め戻しについて締固めを考慮していない量ということだが、埋め戻しの際に締固めしなくて大丈夫かどうか聞かせてほしい。 	R7⑦ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 締め固めを考慮していないという表現だが、当然締め固めはしっかり行う予定である。社内基準では、現地盤の80から90、80パーセント以上というところを目標に締め固めを実施している。ただ、締め固めを考慮していない数量になっていることについては、表現が悪いのかもしれないが、実際は締め固めをしっかりと行なって埋め戻す予定である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤解のないような書きぶりにしてもらいたい。発生土については、安全側の数字を出しているということだが、実際の工事では締め固めもちゃんと行うということだから、それも記載いただきたいと思う。 	R7⑦ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埋め戻しのところの表現が良くないという認識で受け止めた。表現の見直しを含めて検討させていただきたいと思う。 	
<p>(検討事項)8-7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋め戻し土の締固めについて 	R7⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削土量、埋め戻し必要土量、発生土量について整理するとともに、埋め戻しは新設基礎の上部及び既設基礎の撤去部と掘削範囲であり、締固めを行うことを説明した。 	指摘事項 (答申(2)エ)
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前より分かりやすくなった。 			

審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観の予測結果について、図書5-2-395～401ページの写真から、影響は軽微である、あるいは変化が小さいという事は把握できたが、図書5-2-393～394ページの表5-2-159「主要な眺望点からの景観の変化の状況」における予測結果はどのように判断したのか。同表に記載されている「垂直視野角」の数値は、予測結果の判断根拠となるのか教えてほしい。 	R7⑥ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> 後日、回答する。 	検討事項 (17-1)
<p>(検討事項)17-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観の予測結果の判断根拠について 	R7⑦	<ul style="list-style-type: none"> 「景観対策ガイドライン(案)」に示される垂直視野角と鉄塔の見え方について、判断根拠としたことを説明した。 	指摘事項 (答申(3))

審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和8年度第1回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> レクリエーション資源への影響の回避、低減手段について、自然とのふれあいの場、利用の場が近接地域に複数存在することから、影響の回避・低減手段は確実に行使頂きたい。 図書5-2-407ページに記載されている、大楠山ハイキングコースを横断するモノレールを上空に通すという方策について、危険などはないか、実像が浮かばないため危惧を感じるが、大丈夫か。 <p>(検討事項)18-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ハイキングコースを横断するモノレールの安全対策について 	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハイキングコースのモノレールの横断の部分の安全対策については、図書の5-2-405ページでこのような対策をするということで、まずモノレールの通行時にハイカーがいる場合はモノレールを手前で一旦停止をさせ、落下物に対する対応としてはモノレール橋にネットを張り、通行時に落下がないようにという、その2点を考えている。 (※環境保全対策が書かれているのは5-2-407ページ) ハイキングコースを横断する場合の対策について説明した。 	<p>検討事項 (18-1)</p> <p>指摘事項 (答申(4))</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事実関係の質問だが、ハイキングコースの迂回や通れなくなるような場所はないということによいか。 わかった。 その上で、ハイキングコースが変わらないということは、工事を行っているかどうか分からない状態に入ってくる方がいる可能性がある。 環境保全対策等にはモノレールや車両走行時に気をつけることは書かれているが、そもそも工事を行っていることがこれまでハイキング道を利用している方や初めて行く方に伝わるような対策も取ると、より効果的な事故等の未然防止になるのではないかと思う。 環境保全には人と自然との触れ合いという部分での環境保全も含まれているので、そういった対策も講じていただけるように、どこかに今後記載することは可能か。 よろしくお願ひしたい。 交通量へのインパクトの評価は低いとなっているが、ハイキングコースとの接触部分では、そういった評価だけではないリスクもあると思うので、個別のリスクに応じた有効な対策を検討してほしい。よろしくお願ひしたい。 	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑥ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハイキングコースの迂回は実施しない方向で調整している。 ハイキングコースを寸断せず、モノレールは上空を横断させて、ハイカーはモノレール橋の下を歩く方法を考えている。 ハイキングコースの近隣で工事を行っていることに対する周知方法については、関係行政等と詰めていきたい。 横断箇所の前には注意喚起の看板を付ける所があるが、ハイキングコースの入口などにも必要であれば対応を考えたい。 	<p>検討事項 (18-1) に統合</p>